

2011年度 第1回市政ゼミナール盛会に開催。

去る2011年7月20日(月)朱鷺メッセにおいて、2011年第1回いがた市政ゼミナールが開催され、大勢の方々が参加されました。

■どのように強い経済拠点をつくるかが重要。本州日本海側拠点港湾構想を実現するためにも、新潟道州制の議論を

今回は元岩手県知事で総務大臣を歴任され地方主権について詳しい、野村総合研究所顧問 増田寛也氏を講師にお迎えし、「新潟州構想～新しい自治体のありかた」をテーマにご講演いただきました。

初めに増田氏から、東日本大震災による7月時点での三陸地方の状況について説明がありました。「今回の震災による最大の被害は、原発事故と津波によるものでした。特に三陸地方は津波による海沿いの市町村の被害があまりにも大きく、住民と直接つながり、さまざまな事務作業を行っていくべき基礎自治体の肝心の機能がストップしてしまいました。このことが、国との連携を麻痺させ、復興が進まない大きな原因にもなっています。住民を守るという基礎自治体の役割の重要性を再認識し、早急に危機管理体制を整えて二度とこのような事態を招くことのないようにする必要があります」とのお話でした。

また、町づくりは基礎自治体である市町村と広域自治体である県とが連携して行っていくべきであること、新潟では知事と市長が冷静に道州制議論を重ねていることを評価したいと話され、篠田市長との対談に移りました。

篠田市長からは、「新潟市は東アジアとの関係の拠点として重要な役割を担うと思っている。本州日本海側拠点構想を実現したいが、現実には港の管理は県であり空港は国の管理になっている。県や国の権限も活用しながら、新潟州としてポテンシャルを発揮できるのではないか。新潟県との一体化構想を見据えて基礎自治体と広域自治体の役割分担について議論をしている」とのお話がありました。

増田氏は、新潟州構想についてのポイントを二つあげられました。一つは、市長が話すとおり、アジアの中での位置づけとして、その拠点をつくり出すべきだということ。一つは、新潟市においては国の各省庁の管轄が入り組んでいることから分かりにくい。そこを県と市とでクリアにし、どのようにして強い経済の拠点を作るかが重要ではないか、ということでした。さらに、「新潟州構想については分かりにくい部分が多々あります。新潟州の意味や、その良さを市民にわかりやすく説明していく必要がある」と助言をいただきました。

東日本大震災後、復興に向けても基礎自治体と広域自治体の役割分担についてあらためて見直す必要があることを知り、地方分権・地域主権改革の重要性から新潟州という新しい自治体のありかたを考える、有意義なゼミナールでした。



■恒例の「地産地消」で交流会を満喫

市政ゼミナール恒例の「地産地消」をテーマとした美味しい料理を前に会話もはずみ、大いに盛り上がりました。また、食都市新潟のすばらしさを再確認することができ、良い交流会となりました。

● メニューレシピ ●

〈日本料理〉

先付け 新潟木崎産焼き茄子 葱 生姜 割り醤油
黒埼枝豆 盛込み
お造り 鱈と南蛮海老
生寿司 鮪 白身 蒸し海老 烏賊 鱈 イクラ
お食事 十日町茶蕎麦
鯨汁

〈西洋料理〉

佐渡産サザエの壺焼き プロバンス風
日本海産真烏賊と海老のグリエ マルセイユ風
紅鱒のポーピエット キノコのクリームソース
2種類の海老ボイル アメリカンソース
グリルドソーセージ盛り
越乃鶏ソテー クラポディーヌ風
黄金豚ロースのグリル 狩人風
北海道産牛のグリル 洋わさびのソース
越乃鶏のトマト煮込み カレー風味
ロールキャベツのグラタン
ツナとキノコのスパゲティ きこり風
MIXピッツァ
海の幸のサラダ仕立て デリカテッセン風
サンドイッチ
フルーツ盛り合わせ
プチケーキ&デザート
コーヒー



事務局

にいがた広域懇話会(篠田昭後援会)

〒950-0962 新潟市中央区出来島1丁目3番11号 ロイヤル千歳21・1F
TEL 025-280-8870/FAX 025-280-8810
E-mail konwa@shinoda-a.jp